

川をきれいに!! 雨煙別川の清掃

◆日時／9月16日(日) 9:00～12:00
◆場所／夕張川支川雨煙別川下流域



建設資材のようなゴミも回収

「将来、サケ、マスが帰ってくるかもしれない川をきれいにしよう！」と、栗山J.Cの呼び掛けで河川清掃が実施されました。約2時間の清掃でビニール、空き缶、タイヤ、自転車、買い物袋、ペットボトル等、トラック2台分のゴミが回収されました。今回の清掃は、昨年12月に冬の川の環境を見ようとして雨煙別川で行われたフィールドワークにおいて、サケの産卵適地や魚類の越冬場所が確認されたが、たくさんの方が川に捨てられていることがわかったために行われたものです。残暑厳



分別しながらゴミを拾う参加者



集まったゴミはトラック2台分に

しい中、本当にお疲れさまでした(回収できなかったゴミもあることから、来年も実施予定とのことです)。

第25回 夕張川流域会議 概要

◆日時／平成24年11月1日(木)
◆フィールドワーク 13:20～15:00
◆場所／夕張川中流域、幌向川西5号橋、清真布川8号橋
◆意見交換 15:10～16:50
◆場所／南幌町ふるさと物産館「ビューロー」会議室

第25回夕張川流域会議が、前回に引き続き「河川利用」をテーマに行われました。最初に訪れた夕張川中流域は、石狩川下流域で最大規模と言われるシヨウドウツバメの集団営巣地で平成22年には約1,800の巣穴が確認されたところですが、河岸浸食の進行も見られていました。河岸の保護と営巣地の保全を目的とし、護岸をせずにブロックを淵の下に敷設し、対岸を拡幅することで洪水流が営巣地のある河岸にあたらぬような工夫をしました。工事後には、大きな河原が形成され、営巣地観察や川下り等に利用されています。幌向川、清真布川の工事現場では、安全に洪水を流すため既設の堤防を引いて川幅を広げる引き堤工事、地盤が泥炭層で軟弱なために盛土ができないため、事前にそれら地盤を強固にする工事を見学しました。(見学後の意見交換の詳細は、HPを参照下さい。)



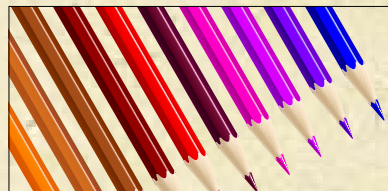
工事現場を見ながら車内での説明



シヨウドウツバメ営巣地付近を見学



フィールドワーク後の意見交換



川の学習手引き書をつくるう

川の学習手引き書をつくるためのフィールドワークは、夕張川の学習活動に関わっているNPO等有志が、夕張川の特長や川の働き、自然と川の関わりを学び、将来の手引き書づくりに役立てるために行われています。



フィールドワーク 2 回目

アイヌ語地名や産業遺跡から夕張川の歴史を読み解くバスツアー

- ◆日時／11月18日(日) 9:30～15:00
- ◆場所／夕張川流域

テーマ アイヌ語地名、産業遺産、地層や地形的特徴から夕張川の歴史を理解する。

長沼の由来となったタンネットの石碑



バス車内で資料を使って説明

長都沼の跡地(ネシコン排水路)で鳥類観察



フィールドワーク 1 回目

鳥類標識調査の見学

- ◆日時／10月18日(木) 6:00～9:00頃まで
- ◆場所／長栗大橋上流左岸河川敷

テーマ 河川敷を利用する鳥類の種類や生態を把握する。鳥類の生態を踏まえ必要となる地形、植生等を把握する。

※この調査は環境省から委託を受けた調査員の立会のもとで行われました。

中央が捕獲用のカスミ網



足に標識をつける調査員



羽を調べて性別、年齢を識別

フィールドワークでわかったこと

- ▼ 今回の鳥類調査では、アオジ、カシラダカ、ベニマシコ、ホオジロ、ホオアカ、ノゴマが確認された。確認される種は、ほぼ渡りをする鳥でいわゆる草原性の鳥が多い。
- ▼ 鳥類にとって河川敷がえさ場や隠れ場所になっており、種によっては河川敷のよし原に営巣する。
- ▼ 由仁安平の低地帯の下層には砂利が堆積していることから、夕張川が砂利を運搬し大地をつくったことがわかる。
- ▼ 長沼町の旧夕張川沿いにある木詰地区は昔、「流木が詰まる」という意味の洪水常襲地帯で、住民は堤防に土のうを積んで自衛していた。対岸の堤防が切れると万歳をしたのでバンザイ堤防と呼ばれていた。
- ▼ 頻発する水害対策と耕作地確保のために夕張川新水路がつけられ、河床の低下を防ぐために清幌床が整備された。
- ▼ 幕末、松浦武四郎が夕張川流域を探検し、当時の地形や地名、アイヌ民族の生活等を日誌に残した。
- ▼ かつて長都沼、馬追沼という大きな沼があり千歳川とつながっていた。長都沼は、戦争中に全国の学生達が動員され排水路整備作業に従事した。
- ▼ 由仁町三川地区の古砂丘は、支笏湖火山の噴火で火山灰が堆積したものだ。また、川端ダム付近では、砂岩層と泥岩層が交互する川端層が見られる。